資料３‐１

**障害者福祉専門分科会コミュニケーション条例検討部会　報告書**

**Ⅰ　コミュニケーション条例検討部会設置の趣旨**

　　令和２年度に第４期八尾市障がい者基本計画策定にあたり設置した障害者福祉専門分科会意思疎通支援検討部会から提出された報告書において、『障がいの有無にかかわらずあらゆる市民が、多様性を認めあい、多様なコミュニケーション手段を活用しながら、市民同士で気軽に対話できる明るい社会』をめざすべき姿として掲げ、その実現に向けては「障がい者理解をはじめ、コミュニケーション支援自体の理解が、より一層、市民全体に広がるためには、さまざまな障がい当事者の意見をお聞きしながら、広く市民に啓発していく必要性を明らかにするために条例化も含めた検討が求められます。」との提言がなされました。

　　加えて、対話をはじめとするコミュニケーションは各種障がい者施策の基本となるものであり、必要性の高いものであると考えます。

　　よって当部会は、コミュニケーションの充実のため、課題の抽出や具体的取り組みの検討、また、条例制定の意義などについて議論を行い、条例化を含めた、めざすべき姿の実現に必要な手法や取り組みなどの方向性を示すことを目的として設置されました。なお、コミュニケーションの意味は大変幅広く、そのために議論が進まないことが懸念されるため、当部会ではコミュニケーションを会話などの双方向のやり取りによる意思疎通と定義します。

**Ⅱ　会議の概要**

　第１回コミュニケーション条例検討部会（書面開催）

日時：令和３年（2021年）９月１０日（金）

内容：コミュニケーション条例検討部会の設立趣旨について

　　　　　　　・コミュニケーションの充実をテーマに取り上げる背景や趣旨等の説明

　　　　　　コミュニケーション条例検討部会の役割について

　　　　　　　・当部会で議論する内容及び目的、今後のスケジュールの確認

　　　　　　昨年度（令和２年度）の取り組みについて

　　　　　　　・令和２年度実施の意思疎通支援検討部会からの報告書の確認等

　　　　　　コミュニケーションにおける課題及び解決案について

　　　　　　　・本市におけるコミュニケーション課題の抽出及びその課題の解決案等の意見聴取

　第２回コミュニケーション条例検討部会

日時：令和４年（2022年）１月１７日（月）午後２時～４時

場所：八尾市水道局４階　大会議室

内容：コミュニケーションの充実のための解決案について

・前回部会で出た課題等に対する解決案や考え方についての議論

　第３回コミュニケーション条例検討部会

日時：令和４年（2022年）３月２２日（火）午後２時～４時

場所：八尾市役所西館４階　４０１会議室

内容：コミュニケーション（会話・対話）のために必要な具体的取り組みについて

　　　　・障がい種別ごとに会話や対話をするうえで効果的な事例や必要だと考える取り組みについての議論

第４回コミュニケーション条例検討部会

日時：令和４年（2022年）６月２８日（火）午後２時～４時

場所：八尾市水道局４階　大会議室

内容：条例制定の意義等について

　　　　・学識経験者より条例制定の意義や考え方などの講義を実施

　　　コミュニケ―ションの充実を実現するための手法について

　　　　・これまでに行った具体的取り組みの議論や条例に関する講義などを踏まえ、めざすべき姿の実現に必要な手法等についての議論

第５回コミュニケーション条例検討部会

日時：令和４年（2022年）９月１４日（水）午後２時～４時

場所：八尾市水道局４階大会議室

内容：条例化の検討について

　　　　・条例制定の意義や法律との関係などについての議論

　　　八尾市コミュニケーションの充実に資する取り組み（案）について

・コミュニケーションの充実のために必要な具体的取り組みの内容やその進行管理の手法などについて議論

コミュニケーション条例検討部会報告書（案）について

　　　　　　 ・当部会における報告書案の内容などついて議論

第６回コミュニケーション条例検討部会（書面開催）

日時：令和４年（2022年）12月７日（水）

内容：障害者福祉専門分科会コミュニケーション条例検討部会報告書（案）等の

　　　資料確認について

　　　今後のスケジュール及び事業展開等の確認について

**Ⅲ　コミュニケーションにおける現状の課題について**

　　八尾市におけるコミュニケーションの課題と解決案について、当部会の各委員から

　出た意見は下記の表のとおりです。



　　課題の内容によって任意の分野に整理し、それぞれに対応する解決案を議論しました。解決案については分野に関わらず「障がいについての理解を深める」「障がい者と関わる機会を増やす」という主旨の内容が多く、障がいや障がい者自身のことを知ることが、会話や対話などのコミュニケ―ションを行うにあたり重要だと改めて確認しました。

**Ⅳ　条例化について**

　　先述した当部会設置の趣旨にもあるとおり、コミュニケーションの充実について条例化の検討を行いました。

　　検討内容については、学識経験者より一般的な条例に対する知識や条例制定の必要性などに関する講義を行い、それを踏まえ八尾市における現状と上位法などの状況を鑑み、下記の観点から条例制定の必要性について議論を行いました。

　　・権利の付与や義務を課す（強制する）必要があるか

　　・理念条例として首長等の交代があっても不変的とする必要があるか

　　・「障害者による情報の取得及び利用並びに意思疎通に係る施策の推進に関する法律」に規定する内容以上のもの（上乗せ、横出し）が必要であるか

　　啓発等の観点から制定する方が良いとの意見もありましたが、議論の結果、法律や大阪府条例、八尾市障がい者基本計画の制定状況等から、現時点ではコミュニケーションの充実に関する条例制定の必要性は高くないとの結論に至りました。

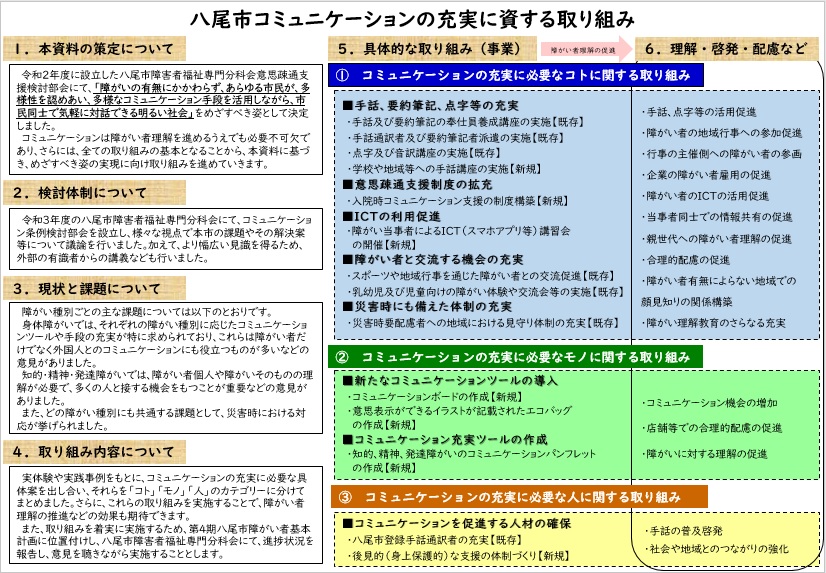
　　しかしながら、コミュニケーション支援の状況や社会情勢等から条例制定の必要性が高まったと思われる場合には、改めて条例化の検討は必要であることも申し添えます。

**Ⅴ　コミュニケーションの充実のための手法等について**

　　コミュニケーションの充実を図るために、障がい種別ごとに、それぞれの観点からコミュニケーションを行うにあたり実践していること、また、実体験から感じたコミュニケーションを行うために必要な「ヒト」「コト」「モノ」などについて具体案を出し合い、議論を行いました。

　　その議論をまとめたものが下図に示す「八尾市コミュニケーションの充実に資する取り組み」です。具体的な取り組みの他に、検討経過や課題、具体的取り組みを実施することで期待できる障がい者理解の内容等を記載しております。

当該資料に記載している具体的な取り組みについては、八尾市障がい者基本計画で実施する事業として位置づけを行い、その進捗状況を八尾市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会へ報告し、意見を聴きながら取り組みを実行していくべきであると考えます。

（図：八尾市コミュニケーションの充実に資する取り組み）

**Ⅵ　まとめ**

　　以上のことから、本部会としての結論は以下のとおりです。

　　「コミュニケーションの充実」に関しては、現時点において、現行の八尾市の施策や計画が確実に進められていくならば、条例化する必要性は高くないとの結論に至りました。しかしながら、今後、上位法令の運用やその他関連法の動向などを注視し、社会情勢等から条例制定の必要性が高まった場合には、改めて条例化の必要性について検討する必要があります。

　　基礎自治体である八尾市としては、具体的な事業として「八尾市コミュニケーションの充実に資する取り組み」から着実に進めることが重要であり、そのために、同取り組みを八尾市障がい者基本計画等に位置付け、また、進捗状況等を八尾市社会福祉審議会障害者福祉専門分科会で報告、評価することで「障がいの有無にかかわらずあらゆる市民が、多様性を認めあい、多様なコミュニケーション手段を活用しながら、市民同士で気軽に対話できる明るい社会」の実現をめざすべきであります。

(※1)インクルーシブ社会…性別・国籍・宗教の違いや障害の有無等にかかわらず、互いを認め合い、

排除せずに共生する社会のこと

(※2)コンタクトパーソン…障がい者のことをよく理解したうえで、自分らしい生活を送ることができる

よう本人の意思決定などの支援を行う人のこと